

参 考 資 料

I 現地調査団関係

II 国内支部連絡会議関係

III RECORD OF DISCUSSIONS

I 現地調査団関係

アセアン青年招へい事業調査団

1. 調査団員氏名及び所属・職名

A 班	谷崎泰明	(外務省技術協力課首席)
	地曳隆紀	(JICAアセアン業務室・室長代理)
	小久保茂昭	(青少年育成国民会議・副会長)
	鍋屋史朗	(JICAアセアン業務室)
B 班	豊嶋一郎	(JICAアセアン業務室長)
	菊池稔	(外務省技術協力課)
	堀添勝身	(勤労青少年グループワーク協会理事)
	中村光夫	(JICAアセアン業務室)

2. 派遣国

A 班	ブルネイ, マレーシア, タイ
B 班	フィリピン, シンガポール, インドネシア

3. 派遣期間

A 班	昭和59年11月25日～昭和59年12月5日
	但し, 谷崎首席を除き他の団員は 昭和59年11月26日～昭和59年12月5日
B 班	昭和59年11月18日～昭和59年11月28日

昭和60年度「アセアン青年招へい事業」に係る各国との協議結果及び要望事項

アセアン青年招へい業務室
昭和59年12月10日

事項	ブルネイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ
協議相手方	文化青年スポーツ省 (シディック次官)	アセアン国内事務局社会文化局 (ラトバアア局長) 青年スポーツ省 (オヨノン補佐官)	入事院(PSD) (アジザン訓練局次長)	外務省アジア太平洋局 (パンシリョ次信補代理)	外務省アセアン局 (タン事務局長)	総理府青年局(NYB) (サイスリー局長)
招へい青年について	• 農村青年と学生を十分な数選出することは困難との懸念	• 各グループにリーダー(35才程度)を同行(扱いは一般参加者と同様)	• 農業従事者の参加は難しい	• 学生、教員は夏休み(5~6月)時期の派遣を希望 • 学生は文化系と理科系の2グループ • 大使館推薦者について柔軟な対応(ネームリストの提出を「フィ側」が要望)	• 「シ側」の大学の夏休み(5/24~6/23)に学生、教員の派遣を希望 • 各グループにリーダー(35才程度)を同行(扱いは一般参加者と同様)	• 学生は科学技術関係30名、農業関係20名の2グループ • 青年指導者は青年組織の指導者を15名、文化関係を15名とした
プログラムについて	• 現地プログラム支援のための監理員の派遣は歓迎	• 講義後の討論時間の増大 • 優秀な通訳者の用意 • レクレーション(スポーツ、ゲーム等)の強化 • 神社、仏閣の見学を減らす • 交流の時間を多くする • 日本語学習の増加 • 着相表敬を入れること	• 日本語教育に重複があり、一貫性のあるものにして欲しい • プログラムを詳しく、また討論テーマを事前に知らせる • 視察、訪問を1日に数多くせず、ゆとりのあるプログラムに • 東京滞在中に金曜1回だけでもモスクに行く時間を • 各省庁訪問時間が短く施設見学に限られ、公務員との意見交換が不十分	• 週に半日(土曜が望ましい)程度の自由を講義を減らしその分視察に • 共通プログラム中アセアン間の交流に配慮 • 地方プログラム中あまり宿舎を移動させないで欲しい	• 共プロにゆとりを講出は可能な限り英語で実施 • 大使館表敬をプログラムに • カウンターパート青年との交流の期間の延長 • 講義を減らしその分視察に	• 日本語学習時間の増加 • 準備の都合上プログラム(特にディスマ)を事前に

事項	ブルネイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ
その他		<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションにインドネシア語を併記 				
当要望事項	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 • グループ構成員の職種をできるだけ統一 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 • グループ構成員の職種をできるだけ統一 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 • グループ構成員の職種をできるだけ統一 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 • グループ構成員の職種をできるだけ統一 	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォームを2ヶ月前に提出 • グループ構成員の職種をできるだけ統一 • 参加青年の選出委員会にオブザーバーとして大使館員及びJICA職員を参加させて欲しい

昭和60年度アセアン青年招へい事業受入計画表

アセアン青年招へい業務室
昭和60年3月19日

国名	分野名	受入計画数							
		受入日	5月12日	5月26日	6月23日	6月30日	8月11日	9月1日	10月20日
合計		780	119	46	77	153	151	125	109
ブルネイ	アセアン混成(I)	5				5			
	教員・学生	10				10			
	アセアン混成(II)	5					5		
	青年指導者	10						10	
	小計	30				15	5	10	
インドネシア	アセアン混成(I)	5				5			
	青年指導者	25				25			
	農村青年	25				25			
	公務員	20				20			
	アセアン混成(II)	5					5		
	学生	25					25		
	教員	25					25		
	都市勤労青年	20							20
小計	150				75	55		20	
マレーシア	アセアン混成(I)	5				5			
	都市勤労青年	18				18			
	学生	25				25			
	アセアン混成(II)	5					5		
	農村青年	25						25	
	教員	30						30	
	青年指導者	25							25
	公務員	17							17
小計	150				48	5	55	42	
フィリピン	教員	24	24						
	学生(A)〔理系〕	25	25						
	学生(B)〔文系〕	20	20						
	農村青年	22			22				
	青年指導者	25			25				
	アセアン混成(I)	5				5			
	アセアン混成(II)	5					5		
	都市勤労青年	24					24		
小計	150	69		47	5	29			
シンガポール	学生	20		20					
	教員	26		26					
	アセアン混成(I)	5				5			
	アセアン混成(II)	5					5		
	公務員(I)	24					24		
	都市勤労青年	23					23		
	青年指導者	23							23
	公務員(II)	24							24
小計	150		46		5	52		47	
タイ	学生(A)〔科系〕	30	30						
	学生(B)〔農系〕	20	20						
	青年指導者	30			30				
	アセアン混成(I)	5				5			
	アセアン混成(II)	5					5		
	農村青年	30						30	
	都市勤労青年	30						30	
小計	150	50		30	5	5	60		

Ⅱ 国内支部連絡会議関係

昭和59年度国内支部連絡会議要約

昭和59年10月23, 24日

JICA 第五会議室

1. 挨拶（宮本研修事業部長）

- ・アセアン青年748名の参加で無事に終了し、協力へのお礼を述べた。
- ・問題点として、ホームステイの充実、受入れ先の選択、アセアン青年と日本青年の意識の相違、特にアセアン青年に比べ日本青年の意識の低さについて述べた。
- ・来年度の実施予定のブルネイを含めた800名のアセアン青年受入れ等について述べ挨拶とした。

2. 昭和59年度事業実施報告（豊嶋室長）

3. 地方実施について(イ)実施計画、(ロ)実施上の問題点

各支部長よりの報告

(1) 沖 縄

- ・タイ農村青年の受入れについて全体としては良かった。これは、関係団体の努力に依る。
- ・ホームステイは良かった。（OB会はホームステイを中心に他は県が主体となって計画実施）
- ・言葉の問題があり、コミュニケーション（意志の疎通）が難しかった。
- ・アセアン青年のグループリーダー、サブリーダーは、挨拶は上手であったが、グループのまとめ役としてはやや問題があった。
- ・乗り物酔い、食事等の問題からホームシックにかかりグループ行動をみだした者がいた。
- ・受入れ側としてアセアン青年のリストを早めに入手したい。
- ・通訳としてタイの留学生、ラオスのOB隊員、タイに長く滞在した人に協力を得た。
東京からのJICAコーディネーターも良かった。
- ・県庁、OB会、JICA及び財団など横のつながりを密にして行ない、特にホームステイはOB会中心、プログラムは県を中心に行なった結果、スムーズに受入れが実施された。地方での受入れは、地方での手足がない中央団体があるため県をたてて県を中心に行なうことが望ましい。

(2) 熊本出張所

- ・受入れの組織づくりから始め最終的には県を中心に準備を行なったが、調整に苦労した。
- ・県市町村からの要望も多くスケジュールがきつくなった。表敬訪問も多すぎた。
- ・受入れ団体のコーディネーターとJICAコーディネーターの関係がうまくいかなかった。
- ・JICAコーディネーターの態度に問題がある場面もあった。
- ・受入れ団体の発言及び対応に一部問題があった。
- ・食事の対応に苦労した。

(3) 九州支部

- ・全体としては良かったように思う。
- ・受入れ団体に問題があり、実質的には県が中心となって受入れを行なった。
- ・ホームステイに関し、青年のリストを早めに入れてもらいたい。今回は、リストが遅れたため準備に手間どった。

(4) 四国支部

- ・すべてスムーズに受入れが実施された。公的な組織(県)が中心となって実施されたことによる。
- ・病人がでたが、できれば看護婦を同行させてほしい。
- ・4名の通訳(英語2名、タイ語2名)が同行したが、現地語(タイ語)しか役に立たず、通訳の負担が1人に集中した。
- ・タイ学生から、初歩的な質問がかなりでた。
- ・事前の日本に対する勉強がなかったように見えた。学校、学生側はクラブ活動等の意見交換を期待していたのに。
- ・県は国立機関との交流が全くなく、本件事業で交流の機会が生まれた。

(5) 中国支部

- ・県が中心となって、受入れはスムーズに行なわれた。
- ・ホームステイも県が中心となってうまくいった。
- ・JICAコーディネーターは良かった。
- ・広島について知事表敬は行なわれたが、レセプションには一度も知事自身は出席しなかった。費用全額JICA負担では知事は出席しにくい。

(6) 関西支部

- ・中央からの指定の地方団体に問題があった。
- ・地方団体をトンネルにし、中央団体が実施する場合は、直接中央団体と本部で契約を行なってもらいたい。

(7) 中部支部

- ・ J I O A コーディネーターに質的問題があった。エキスパートを配置すべきである。
- ・ ラマダン時期と重なり対応に困った。
- ・ 青年リストを含めた実施内容について早目に連絡してほしい。
- ・ 知事のレセプション等で、実際には J I O A 主催である事を強調するよう各団体に徹底すべきである。
- ・ 国から県に金が流れるようにならないか。そうすれば、県は協力しやすくなる。

(8) 関東支部

- ・ 支部として、各県と団体への連絡、予算の執行を行なった。
- ・ 受入れの実施プロセスについて直前まで明らかになっていなかった。
- ・ 当初から県との事前協議もなく、実施県、団体が決められた。
- ・ 地方団体については面識もないまま、実施手続が行なわれた。
- ・ 中央団体、地方団体及び県との連絡が不十分であった。
- ・ 各本省から各県に協力依頼文がでていたため、本年度は県が協力してくれた。地方の場合は、県の協力、努力がなければ実施できない。県としては何としても県費は出さざるを得ない状況にあり、県が中心となる執行体制を考えるべきである。
- ・ 団体の中には、孫受け、ひまご受けをしている団体もある。

(9) 東北支部

- ・ 地方団体として行政機関（県）と契約できない。
- ・ 団体がはっきりしたものでなく、実施手続及び実施後の精算処理に苦労している。
- ・ ホームステイ受入れ家庭に代償を払えないか。
- ・ その他詳細は、別添資料 3 の通り。

(10) 北海道支部

- ・ 受入れの実施内容を早めに連絡してほしい。そうすれば、ホームステイについても適当な所にアセアン青年をホームステイさせることができる。（例えば、農村青年は農家に）
- ・ 日本語の勉強を事前にもっと行なうべきである。
- ・ 各国の事情を考えたホームステイ案内書を作成すべきである。
- ・ ホームステイ家庭に子供もあり、健康診断（結核への感染を防ぐ）をじゅうぶん行なうべきである。
- ・ 道としては、来年度も同じ国を受入れたいと考えている。

この後予定時間が経過したため、翌 10 月 24 日の午前中継続して会議を行なった。

4. 60年度取り組み方針（豊嶋室長）

- ・10月上旬にアセアン青年招へいに係る各省会議をもった。特に大きな問題はなかったが、各省としてはできるだけ直属の団体に受入れをさせたい意向を示した。
- ・10月25日実施団体との会議を持つことになっている。
- ・来年度については外務省を通じて、グループ、数、受入時期に関する当方の案を送付し、各国の意向を打診中。
- ・ラマダン、お盆、ゴールデンウィークは避けるようにしたい。
- ・ブルネイは50名を受入れることで予算要求中。

5. 前日の会議での問題点についての解答（豊嶋室長）

- ・健康診断については、一応全員が受けている。
- ・ホームステイガイドについて各国別は考えないとしてもモスLEMに関しては別途作成する必要があると考える。
- ・日本語訓練については、教材の早期配布に力を入れる。
- ・受入れ青年リストについては、アセアン諸国に強く希望して早期入手し、配布できるようにしたい。
- ・監理員については、事前の教育及び訓練を考え、オリエンテーションを強化し、業務に対する一層の自覚をうながしていきたい。

6. 支部との質疑

（関東支部）

- ・60年度においても、本年度と同じ予算の流れとなるのか。（室長より同じ流れになる予定と解答）
- ・支部は中央、地方団体、県の決定に関与できない。本事業については、組織的な運営が望ましい。外務省に対し、次の提案をするようお願いしたい。
 - (1) 県としては、国際交流事業を国レベルの仕事であり、県レベルで実施するのはおかしいとの意見がある。又、自治省から出向している県の課長クラスにおいても国際交流事業について、県の事業としての認識が低い。
 - (2) 従って県の協力を得るためにも外務省本省から各県に資金を渡すべきである。
 - (3) 外務省移住領事部及び協力隊については、各種補助金が本省より各県に送金されている。
- ・県に対しては、予算措置ができるようアセアン受入れについて早期に決定し提示すべきである。12月上旬が望ましい。

(中部支部)

- ・実施予算単価の見直しはあるかどうか。(室長より本年度並みと回答)
- ・単価は上げるべきである。特にパーティの1人当りの単価は上げるべきである。
(パーティは交流そのものであり、ホームステイ家庭への謝意も有る。)

(中国支部)

- ・日本青年との交流の機会を増すため、1人のアセアン青年に対し、2人の日本青年をつける必要がある。
- ・県が予算手当をしていないため県が動きにくい。本省からの補助金がほしい。
- ・県の予算措置ができる時期に合わせ受入時期を早目に連絡すべきである。

7. 来年度の受入れに対する各県の意向

- | | | |
|-----|-------|--|
| 東 北 | …………… | 6 県とも受入れ可能。分野問わず。 |
| 中 部 | …………… | 岐阜県は不可。三重県でやる場合は早めに知らせてほしい。 |
| 関 西 | …………… | お願いすれば全部可。特に奈良県、兵庫県は実施希望。 |
| 中 国 | …………… | 鳥取は不可(国体のため)。岡山、山口県は是非実施したい。広島、
島根は可。 |
| 四 国 | …………… | 香川県は是非。徳島県は担当者ベースで積極的。 |
| 九 州 | …………… | 大分、福岡、宮崎(5ヶ年シンガポール希望)は是非。長崎、佐賀、
鹿児島、熊本は可。 |
| 沖 縄 | …………… | 毎年実施したい。その場合国を毎年変えたい。 |
| 関 東 | …………… | 特に積極的な県は無し。各県とも早目に対応すれば受入れ可能。 |
| 北海道 | …………… | 毎年実施したい。 |

昭和60年度国内支部連絡会議要約

昭和60年11月15日

JICA第5会議室

室長 アセアン青年招へい事業に関する国内支部連絡会議を開催する旨の挨拶

部長 60年度の本事業も、最終段階に入り最後の第7陣の敏送会、そして19日の帰国を待つのみ、780名の受入計画で、実質は778名の来日となった。本年は特に大きな問題もなく実施できた。昨年は、アセアン青年の意識が高く、逆に日本青年の質、人数の問題があったが、団体へも改善の要望をだし、日本青年の語学の素養等の質も考えて入達し、オリエンテーションの実施を徹底してもらった結果、日本青年に対する大きな批判はなくなった。ホームステイについては、昨年はホームビジット、1泊のホームステイもあったが、今年は2泊3日を完全実施した。地方プログラムについては、知事表敬を含め改善がみられ、評価会でも不満は少なかった。皆様方の御協力の賜物と考える。アプリケーションフォームの早期入手については、若干改善できたと思う。なお一層早い時期に入手するよう努力したい。

予算要求では、広く太平洋地域へも拡大したいとの考えから、太平洋青年(PNG、フィジー)20名、ビルマ青年10名を新規に、又、ブルネイ青年も50名で要求している。

新聞報道について、11/2のシナール・ハラバン紙夕刊の記事に関し11/3の毎日、11/4の朝日で、インドネシアでの入選に不正ありという記事がでた。各州2名の割当てが守られていないのは協定違反であると非難されているが、R/D、メモランダム等にそのような約束はない。青年スポーツ省出身者、縁故者が多いという点に関し、職員は59年度7名、60年度5名であった。縁故者については調査中。各国とも国内交通費は支払っている。宿泊費、食費は現物支給であり、国内交通費についても半券で精算しているので問題はないはずである。肩書のごまかしについて、農村青年の中に医学、法学部出身者がいたという点に関しては、このグループは農業関係者のグループであり問題はない。グループのカテゴリーの統一はミッションでも要望している。パスポートへの虚偽の記載に関しては、ジャカルタ出身者を地方出身者といつわったとしている。手元の資料にはないので調査中である。高級ホテルを使っているという点に関し、2日間は、教員研修所、その他は3人1部屋で1人4,000円の中の下のホテルを使用している。ホームステイ先で盗みをはたらいたという点については、ホームステイ先から報告は受けていない。又、この記事は、この事業そのものへの批判ではなく、現地の問題でもあり内政干渉になら

ないよう配慮が必要と考えている。又、人選についても、インドネシア国内の問題であり、広く新聞等を通じて公募している国もあり、広い範囲から集めるようにお願いはして行きたい。

室 長

時間の節約のため、各支部から提供していただいた本年度の事業、特に地方プログラム実施上の問題点及び来年度の事業計画に対する御要望を要約したので、それぞれの項目について業務室の考え方を申し述べさせていただきたい、もれたものがあれば、そのあとで質問していただきたい。

メンバーリストの送付が遅い。

昨年よりは改善されたと思うが、満足できる状態ではない。1月のミッションで先方政府の関係当局に要望するほか対応策を検討し、1ヶ月前入手を目指したい。

地方団体の問題

団体の組織が弱小である。県市町村に事務依存しすぎる。

この点については、ケース・バイ・ケースで対応して行きたい。

中央団体の問題

中央、地方、支部の打合せがない。地方団体の決定も遅い。

そういうことのないよう指導して行きたい。

本部～支部間の連絡を緊密化

本部も注意して行く。又、支部からの連絡もよろしく願いたい。

2本立ての予算を1本にできないものか

団体が弱小ということもある。又、大きな金額は支部で押えておいた方が指導もしやすいので、現在のシステムで行きたい。

経費流用（目変更）

地方で行なうと中央にも波及してくる。精算も遅くなるので、目変更は認めないで、見積りをできるだけ正確なものにするよう指導して行きたい。

小グループの管理経費が少ない

レセプション費等は、ある程度弾力的に対応したつもりである。ケース・バイ・ケースの対応を考えたい。

支払いを早く、仮払いはできないものか

熊本は九州支部を経由するため時間がかかることには留意している。JICAとしてはシステム上仮払いはできない。

自治体側の要望を入れて受入県を決定して欲しい

今年はかなり改善されたと思うが、もし要望があれば、業務室へ連絡していた

だきたい。

県の窓口の統一

JICAとしては、統一しても関係省庁がらみで、完全に一本化することは困難と考える。

ホームステイの3泊4日実施

最低2泊3日ということをお願いした。3泊4日を実施した県もあった。3泊4日の場合、ウィークデーの日中、家庭を離れさせ特定のプログラムに参加させることも承認している。

学生は夏休の時期を避ける

昭和61年度は、学生、教員は夏休み期間は避けて受入れるべく計画している。

コーディネーターの資質

去年は数支部から問題とされたが、今年は1支部だけであった。語学以外、日本語の使い方や態度の問題と思うが、研修事業部では財団へ研修の充実、改善につき申し入れている。

地方プログラムと中央でのプログラムの重複

重複を避けるため、いろいろな策を講じたい。又、余力のある地方の方が中央のプログラムに青年として参加することは可能である。

ホームステイで浮いた分を団体へ還元

還元はできない。しかし節約分については、有効に活用するようケース・バイ・ケースで検討したい。

インドネシアの人数が20名から29名に変更

人数減の調整により、最終陣に集中して御迷惑をかけた。グループの人数の増減については、情報入手次第、可及的速やかに支部にも連絡していく。

JICA職員を全行程にはりつけられないか

無理がある。そのためにコーディネーターをつけている。

関東 地の利を得、3月に中央団体の担当者を集めて会議をもち、問題点のつめを行なった。各支部とも関係団体とつめを行なうことも必要ではないか。その後関係各県主管課に、お願いに回った結果、2年目は順調に行った。ただ、支部が直接支払う経費を契約金額に含めるかどうかについての問題がある。

東京隣接の県下でも実施したいが。

東北 県は意欲的である。地方団体は実態のないものが多く、地方行政の指導の下に行なう方が実態にあり。

部長 ケース・バイ・ケースでの対応を考えたい。

- 関 東 地方に根をなしかずらの場合、個人ベースとなる。
 室 長 個別指導は強めていきたい。
 担当者レベルでの会議を中広く行ないたい。
 東京隣接県については、検討させて頂きたい。
- 関 西 コーディネーターは通訳に熱心な人と、プログラムに熱心な人がいる。
 相互のコミュニケーションを良くしていくことで解決できるだろう。
- 室 長 何か問題がある場合直接連絡して頂きたい。
- 財 団 コーディネーターは臨時を使っている経緯もあり、すべて経験者とはならないが、
 9割程度のグループには1名は経験者がついている。
- 部 長 言葉より、人間性の問題が大きく、非常識な人はやめてもらっている。
- 財 団 コーディネーターの職務分担はないが、チーフ格を決めていることはある。
- 室 長 現地語の場合、通常語学能力にも差があるので、1人がチーフ格となっている場合
 が多い。
- 九 州 マレーシアについては、1名は英語でもよいのではないか。
- 室 長 昨年は現地語と英語の組合わせで行ない、英語の人が遊んでいたということもあつた。
 その反省から本年度は2人共現地語のコーディネーターをつけてみた。しかし、
 マレー語については、人材が少ない。マレーシアについては、来年はもとに戻して
 マレー語と英語のコーディネーターにすることを検討したい。
- 東 北 業務に補助員をつけているが、研修監理員と同様な雇用形態はとれないものか。
- 部 長 微妙な問題である。別途個別に御要望を承りたい。
- 室 長 アンケート集計結果について
 国毎に若干違ってきているので、プログラム作成の参考にして頂ければと思う。
 又、タイについて1つ注意して頂きたいのは、広島が楽しくないと出ているのは、
 翻訳の問題でおもしろいかという質問になっていたためであり、厳粛なもの
 を楽しいとはいえないとするためである。帰国時アンケートをまとめたものは、最
 終陣分を入手次第作成する。
- 東 北 青年の感想からは、日本人青年との交流、ホームステイの2点がきわだった意見で
 あった。
- 関 西 団体から青年は観光に熱心であると聞いている。
- 室 長 国民性の違いもこのアンケートには出ているかもしれない。又、国、グループ、年
 度等により違った傾向もでてくるようである。例えば、シンガポールの初年度は勉
 強に熱心であったが、今年は観光に熱心のようにある。
 受入計画案について

中央団体に10月にアンケート調査を行ない、その結果を調整したものであり、研修事業部の一次案のたたき台と考えている。各国の受入時期、受入グループはほぼこの形で行ないたい。各団体の担当グループ数は、今年と同じとなっている。実施県については、同一県では2つまでに調整してある。

- 次長 ビルマ、フィジー、PNGは今後の検討課題である。
- 室長 アセアンと同じ方法でこれらの国も考えていく。
- 関西 なるべく、ならした形で行なって欲しい。
- 部長 なるべく、まんべんなく県は選びたいと思っている。
- 関西 中央できめるという方法では、こういう結果になるのだろうか。
- 九州 毎年特定の県で行なっている場合は、本部で他県への振替を指導はできないものか。
- 部長 県とのわたりをつけるのは支部の方がしやすい。県はJICAから指定していくような形も考えられるのではないか。
- 室長 地方の組織の活用というシステムの問題にもかかわってくる。
- 関西 地元の意向が反映していないのではないか。
- 関東 能率的に行なっていくというJICAの意向の場合には同じ県がよいだろう。県は担当課のやる気の問題である。
- 又、本事業が5年以上続くのであれば、考えをねり直し外務省を通じて各県の意向を聞くようにしてはどうか。
- 四国 県の意向は支部の方がつかみ易い。市で実施する場合も県の協力が必要になる。支部の意向を先に聞いて、その情報をもとに、実施県を決めて頂きたい。
- 室長 この表は、アンケートの結果をわかりやすくまとめたもので、支部の意見を先に聞き、団体との打合せの際JICAの要望として出していきたい。


RECORD OF DISCUSSIONS

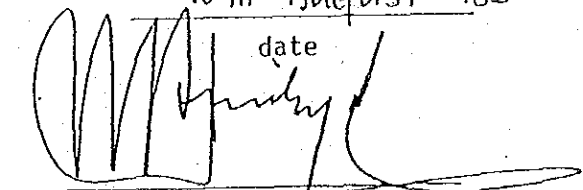
ON

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Mr. Yutaka Shimomoto, Second Secretary of the Embassy of Japan in Negara Brunei Darussalam, and Dato Sidek bin Yahya, Permanent Secretary, Ministry of Culture, Youth and Sports, representative of Brunei Darussalam held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 30 Bruneian young people to Japan in the Japanese fiscal year 1985, through Japan International Cooperation Agency under the technical co-operation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.


Mr. Yutaka Shimomoto
Second Secretary of the
Embassy of Japan

10th AUGUST 1985
date

Dato Sidek bin Yahya
Permanent Secretary
Ministry of Culture, Youth &
Sports
Negara Brunei Darussalam

GUIDELINES
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 of ASEAN countries young people who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youth can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personal contacts, long-lasting relationship of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youth to be invited

(a) The candidates are Bruneian youth who hold leading positions in the following fields.

- i) Youth engaged in or related to agriculture;
- ii) Working (including young civil servants, journalists, etc);
- iii) Teachers;
- iv) Students; and
- v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities)

(b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications:

- i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5.(2) below;
- ii) To be around the age from twenty (20) to thirty (30) years old; and
- iii) To be in good health both mentally and physically, to enough pursue the visiting programme, (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).

(c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

(2) Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned of Japan, the following points are respected in the course of arranging the visiting scheduled.

- i) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries youth but also among ASEAN countries youth.
- ii) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the middle of November.
- iii) The duration of visit is about a month.

3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Bruneian youth under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of Negara Brunei Darussalam takes necessary measures through Ministry of Culture, Youth and Sports to select and dispatch to Japan Bruneian youth in consultation with the Government of Japan.

The Government of Negara Brunei Darussalam takes necessary measures through Ministry of Culture, Youth and Sports to co-operate with the Embassy of Japan in arranging the pre-departure programme.

4. Tentative Invitation Programme

The programme may include following sub-programmes:

- (1) Pre- departure programme:
- (2) General orientation;
- (3) Special programme designed to enhance mutual understanding between Bruneian youth and their Japanese counterparts in their respective fields;
- (4) Fields trip to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan, and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application

(1) The Government of Japan informs, in principle, at latest five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of Negara Brunei Darussalam of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G.I.).

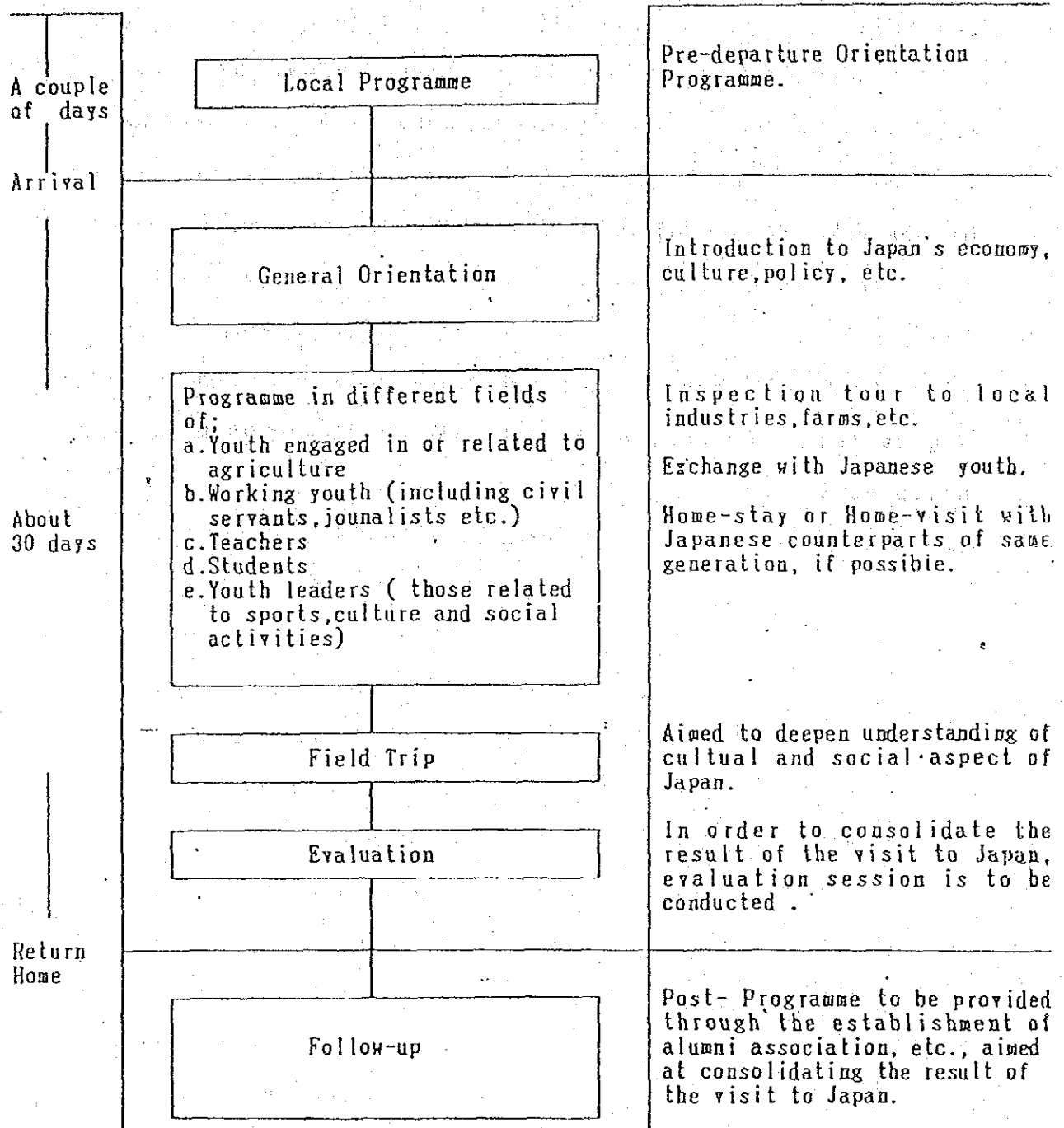
(2) The Government of Negara Brunei Darussalam takes necessary measures to nominate the appropriate candidate for the invitation programme and forward four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.

(3) The Government of Japan informs the Government of Negara Brunei Darussalam whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

Annex

Outline of the Tentative Invitation Programme

The Friendship Programme for the 21st century



N.B : This programme may be revised through consultation between the Government of Japan and the Government of ASEAN countries.

RECORD OF DISCUSSIONS

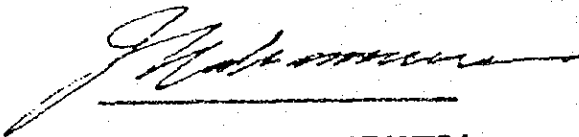
ON

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Mr. Junichi Nakamura, Minister of the Embassy of Japan in the Republic of Indonesia, and Mr. Adiwoso Abubakar, representative of the Government of the Republic of Indonesia, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following :

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 150 Indonesian young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.

28th April, 1984



Mr. JUNICHI NAKAMURA
Minister of the Embassy
of Japan



Mr. ADIWOSO ABUBAKAR
Director General,
ASEAN National Secretariat
Department of Foreign Affairs
of the Republic of Indonesia

GUIDELINES

ON

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 of ASEAN countries young people who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youth can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and the ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personal contacts, long-lasting relationship of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youth to be invited

(a) The Candidates are Indonesian youth who hold leading positions in the following fields.

- i) Youth engaged in or related to agriculture ;
- ii) Working Youth (including young civil servants, journalists, etc.) ;
- iii) Teachers ;
- iv) Students ; and
- v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities)

(b) The candidates

(b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications :

- i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5. (2) below;
- ii) To be the age from eighteen (18) to thirty-five (35) years old; and
- iii) To be in good health both mentally and physically, to enough pursue the visiting programme, (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).

(c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

(2) Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned of Japan, the following points are respected in the course of arranging the visiting schedule.

- i) The participants are accepted as separate groups the size of which should be approximately fifty (50) persons divided into two sub-groups.
- ii) A sub-group is composed of approximately twenty-five (25) persons from one field.
- iii) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is

envisaged

envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries youth but also among ASEAN countries youth.

- iv) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the end of October.
- v) The duration of visit is about a month.

3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Indonesian youth under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of the Republic of Indonesia takes necessary measures through the Office of the Minister for Sports and Youth Affairs to select and dispatch to Japan Indonesian youth in consultation with the Government of Japan.

The Government of the Republic of Indonesia takes necessary measures through the Office of the Minister for Sports and Youth Affairs to co-operate with the Embassy of Japan and the Resident Representative of JICA in the Republic of Indonesia in arranging the pre-departure programme.

(3) The Embassy

(3) The Embassy of the Republic of Indonesia in Tokyo takes appropriate measures in consultation with the Government of Japan and JICA whenever necessary to implement the Programme in Japan.

4. Tentative Invitation Programme

The programme may include following sub-programmes :

- (1) Pre-departure programme,
- (2) General orientation
- (3) Special programme designated to enhance mutual understanding between Indonesian youth and their Japanese counterparts in their respective fields,
- (4) Field trip to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan, and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application

(1) The Government of Japan informs, in principle, at latest five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of the Republic of Indonesia of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G. I).

(2) The Government

(2) The Government of the Republic of Indonesia takes necessary measures to nominate the appropriate candidate for the invitation programme and forward four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.

(3) The Government of Japan informs the Government of the Republic of Indonesia whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

Outline of the Tentative Invitation Programme
The Friendship Programme for the 21st Century

A couple of days	Local Programme	Pre-departure Orientation Programme.
Arrival	General Orientation	Introduction to Japan's economy, culture, policy, etc.
About 30 days	<p>Programme in different fields of;</p> <ul style="list-style-type: none"> a. Youth engaged in or related to agriculture b. Working youth (including civil servants, journalist etc.) c. Teachers d. Students e. Youth leaders (those related to sports, culture and social activities) 	<p>Inspection tour to local Industries, farms, etc.</p> <p>Exchange with Japanese youth</p> <p>Home-stay or Home-visit with Japanese counterparts of same generation, if possible.</p>
Return Home	Field Trip	Aimed to deepen understanding of cultural and social aspect of Japan.
	Evaluation	In order to consolidate the result of the visit to Japan, evaluation session is to be conducted
	Follow-up	Post-Programme to be provided through the establishment of alumni association, etc., aimed at consolidating the result of the visit to Japan.

N.B. : This programme may be revised through consultation between the Government of Japan and the Government of ASEAN countries.

OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21st CENTURY

1. PURPOSE

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. CONTENTS OF PROGRAMME

The Programme consists of the following subjects

- (1) Orientation;
- (2) Briefing on Youth Policies and Programmes in Indonesia;
- (3) Briefing on Cooperation between Japan and Indonesia;
- (4) Introduction of Japan;
- (5) Study of Japanese daily conversation;
- (6) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Jakarta, and
- (7) Briefing on the trip to Japan.

3. DURATION

The Programme will be conducted from June 24 to June 29, from August 5 to August 10, and from October 14 to October 19, 1985.

4. QUALIFICATION OF PARTICIPANTS

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Office of State Minister of Youth Affairs and Sports Republic of Indonesia.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as " JICA") bears the following expenses :

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e. meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accomodation and living allowance for participants.

6. Office of State Minister for Youth Affairs and Sports is requested to undertake the following items in cooperation with JICA :

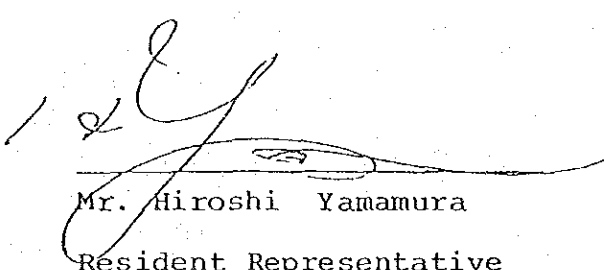
- (1) To appoint lecturers and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) To arrange study tour;
- (3) To make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) To make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) To make the necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) To prepare the necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) To take the necessary measures for any problem that the participants may be involved in the course of participation in the Programme.

7. ACCOUNTING PROCEDURES


- (1) Office of State Minister for Youth Affairs and Sports takes necessary measures to submit to the JICA Jakarta Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5, above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) Office of State Minister for Youth Affairs and Sports submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipt and other documentary evidence if so requested by the latter.

Mr. Oyong Karmayudha, Special Advisor to the State Minister for Youth Affairs and Sports and Mr. Hiroshi Yamamura the Resident Representative of JICA Jakarta Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Jakarta, April 1, 1985



Mr. Hiroshi Yamamura
Resident Representative
of JICA Jakarta Office



Mr. Oyong Karmayudha
Special Advisor to the
State Minister for Youth
Affairs and Sports.

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. PURPOSE

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. CONTENTS OF PROGRAMME

The Programme consists of the following subjects :

- (1) Orientation ;
- (2) Briefing on Youth Policies and Programmes in Indonesia;
- (3) Introduction of Japan ;
- (4) Study of Japanese daily conversation ;
- (5) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Jakarta, and
- (6) Briefing on the trip to Japan.

3. DURATION

The Programme will be conducted from May 23 to May 26, from June 27 to June 30, and from September 12 to September 15, 1984.

4. QUALIFICATION OF PARTICIPANTS

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Office of State Ministry of

Youth Affairs and Sports, Republic of Indonesia.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") bears the following expenses :

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e. meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowance for participants.

6. Office of State Ministry for Youth Affairs and Sports is requested to undertake the following items in cooperation with JICA :


- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make the necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare the necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take the necessary measures for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.

7. ACCOUNTING PROCEDURES

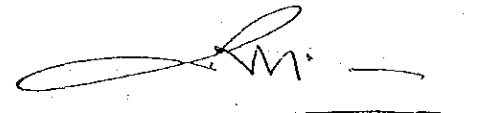
- (1) Office of State Ministry for Youth Affairs and Sports takes necessary measures to submit to the JICA Jakarta Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5. above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) Office of State Ministry for Youth Affairs and Sports submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipt and other documentary evidence if so requested by the latter.

Mr. Soenaryo, Assistant to the State Minister for Youth Affairs and Sports and Mr. Hiroshi Yamamura the Resident Representative of JICA Jakarta Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Jakarta, May 9, 1984



Mr. Hiroshi Yamamura
Resident Representative
of JICA Jakarta Office



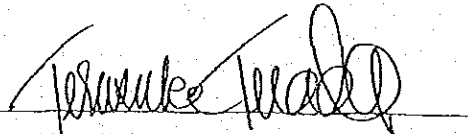
Mr. Soenaryo
Assistant to the State
Minister for Youth
Affairs and Sports

RECORD OF DISCUSSIONS
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Mr. Terusuke TERADA, Minister of the Embassy of Japan in Malaysia, and Mr. Zainol Abidin bin Dato' Haji Salleh, Acting Deputy Director General of Public Services Department and Chairman of the Technical Committee of the Look East Policy, representative of Malaysia, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 150 Malaysian young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.

April 26, 1984



Mr. Terusuke TERADA,
Minister and Deputy Chief
of Mission,
Embassy of Japan,
Malaysia.



Mr. Zainol Abidin bin Dato'
Haji Salleh,
Acting Deputy Director General,
Public Services Department and
Chairman, the Technical
Committee of the Look East Policy.

GUIDELINES
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 of ASEAN countries young people who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youths can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and the ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personal contacts, long-lasting relationship of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youths to be invited

(a) The Candidates are Malaysian youths who hold leading positions in the following fields:

- i) Youth engaged in or related to agriculture;
- ii) Working Youth (including young civil servants, journalists, etc.);
- iii) Teachers;
- iv) Students; and
- v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities).

- (b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications:
- i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5.(2) below;
 - ii) To be around the age from twenty (20) to thirty (30) years old; and
 - iii) To be in good health both mentally and physically, to be able to pursue the visiting programme, (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).
- (c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

(2) Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned of Japan, the following points are respected in the course of arranging the visiting schedule.

- i) The participants are accepted as separate groups the size of which should be approximately fifty (50) persons divided into two sub-groups.
- ii) A sub-group is composed of approximately twenty-five (25) persons from one field.
- iii) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries youths but also among ASEAN countries youths.

- iv) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the end of October.
- v) The duration of visit is about a month.

3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Malaysian youths under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of Malaysia takes necessary measures through Public Services Department, Malaysia to select and dispatch to Japan Malaysian youths in consultation with the Government of Japan.

The Government of Malaysia takes necessary measures through Public Services Department, Malaysia to co-operate with the Embassy of Japan and the Resident Representative of JICA in Malaysia in arranging the pre-departure programme.

(3) The Embassy of Malaysia in Tokyo takes appropriate measures in consultation with the Government of Japan and JICA whenever necessary to implement the Programme in Japan.

4. Tentative Invitation Programme

The programme may include following sub-programmes:

- (1) Pre-departure programme,
- (2) General orientation,
- (3) Special programme designed to enhance mutual understanding between Malaysian youths and their Japanese counterparts in their respective fields.

- (4) Field trips to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan; and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application

(1) The Government of Japan informs, in principle, at latest five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of Malaysia of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G. I).

(2) The Government of Malaysia takes necessary measures to nominate the appropriate candidates for the invitation programme and forward four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.

(3) The Government of Japan informs the Government of Malaysia whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST
CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. Contents of Programme

The Programme consists of the following subjects :

- (1) Orientation by Malaysian officers;
- (2) Introduction of Japan by a Malaysian lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Kuala Lumpur, and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted from June 27 to June 30, August 29 to September 1, and from October 17 to October 20, 1985.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Malaysia.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the following expenses :

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e. meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowance for participants.

6. Public Service Department of Malaysia (hereinafter referred to as PSD) is requested to undertake the following items in cooperation with JICA :

- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.

7. Accounting Procedures

- (1) PSD takes necessary measures to submit to JICA Kuala Lumpur Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5 above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) PSD submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Mr. _____ of PSD and Mr. Makoto Nakamura, the Resident Representative of the JICA Kuala Lumpur Office share the same understanding as mentioned above and will take the necessary measures accordingly.

Kuala Lumpur, 1985

Mr Makoto Nakamura
Resident Representative of
JICA Kuala Lumpur Office

Mr

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST
CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. Contents of Programme

The Programme consists of the following subjects :

- (1) Orientation by Malaysian officers;
- (2) Introduction of Japan by a Malaysian lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Kuala Lumpur, and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted from May 2 to May 5, and from September 12 to September 15, 1984.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Malaysia.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the following expenses :

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e. meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowance for participants.

6. Public Service Department of Malaysia (hereinafter referred to as PSD) is requested to undertake the following items in cooperation with JICA :

- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.

7. Accounting Procedures

- (1) PSD takes necessary measures to submit to the JICA Kuala Lumpur Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5 above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) PSD submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

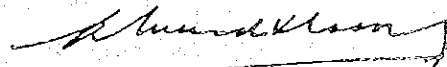
Mr. Ahmad Hassan Osman of PSD and

Mr. Makoto Nakamura, the Resident Representative of the JICA Kuala Lumpur Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Kuala Lumpur April 3, 1984



Mr. Makoto Nakamura
Resident Representative of
the JICA Kuala Lumpur Office



Mr. Ahmad Hassan Osman
Director
Training and Career Development
Division
Public Services Department
Malaysia

RECORD OF DISCUSSIONS

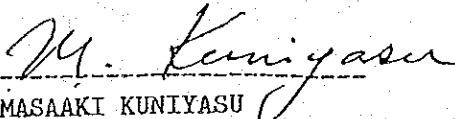
ON

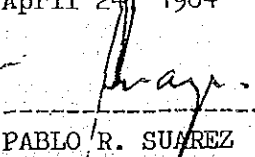
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Assistant Minister Pablo R. Suarez, Office of Asian and Pacific Affairs, Ministry of Foreign Affairs, representative of the Government of the Philippines, and Minister Masaaki Kuniyasu of the Embassy of Japan in the Philippines, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 149 Filipino young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme will be implemented along the guidelines attached hereto.

April 24, 1984


MASAAKI KUNIYASU
Minister, Embassy of Japan


PABLO R. SUAREZ
Assistant Minister
Office of Asian and Pacific Affairs,
Ministry of Foreign Affairs

GUIDELINES

ON

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 young people from ASEAN countries who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youths can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and the ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personal contacts, long-lasting relationships of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youth to be invited

(a) The Candidates are Filipino youths who hold leading positions in the following fields:

- (i) Youth engaged in or related to agriculture;
- (ii) Working Youths (including young civil servants, journalists, etc.);
- (iii) Teachers;
- (iv) Students; and
- (v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities)

Aut
↓
1

(b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications:

- (i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5 (2) below;
- (ii) To be around the age of eighteen (18) to thirty (30) years old; and
- (iii) To be in good enough health, both mentally and physically, to pursue the visiting programme (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).

(c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

2. Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned in Japan, the following points will be followed in the course of arranging the visiting schedule.

- (i) The participants are accepted as separate groups the size of which should be approximately fifty (50) persons divided into two sub-groups.
- (ii) A sub-group is composed of approximately twenty-five (25) persons from one field.
- (iii) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries youth but also among ASEAN countries youth.

- (iv) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the end of October.
- (v) The duration of visit is about a month.

3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Filipino youth under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of the Republic of the Philippines takes necessary measures through the Ministry of Foreign Affairs to select and dispatch to Japan Filipino youth in consultation with the Government of Japan.

The Government of the Republic of the Philippines takes necessary measures through the Ministry of Foreign Affairs to co-operate with the Embassy of Japan and the Resident Representative of JICA in Manila in arranging the pre-departure programme.

(3) The Embassy of the Philippines in Tokyo takes appropriate measures in consultation with the Government of Japan and JICA whenever necessary to implement the Programme in Japan.

4. Tentative Invitation Programme

The Programme may include the following sub-programmes:

- (1) Pre-departure programme,
- (2) General Orientation,

me. K
S.
1

- (3) Special programme designed to enhance mutual understanding between Filipino youth and their Japanese counterparts in their respective fields,
- (4) Field trip to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan, and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application.

- (1) The Government of Japan informs, in principle, at least five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of the Republic of the Philippines of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G.I.).
- (2) The Government of the Republic of the Philippines takes necessary measures to nominate the appropriate candidates for the invitation programme and forwards four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.
- (3) The Government of Japan informs the Government of the Republic of the Philippines whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

me. K
↓
|

ARRANGEMENTS OF THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21st CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to better comprehend the visiting programme to Japan.

2. Contents of the Programme

The Programme consists of the following subjects:

- (1) Orientation by a Ministry of Foreign Affairs Officer;
- (2) Introduction of Japan by a Ministry of Foreign Affairs Lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour in and around Metro Manila to deepen understanding of Philippine-Japan relations; and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted for approximately four days for each group of the participants for the period of four years commencing 1985, subject to budgetary appropriation of the Government of Japan.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of the Philippines.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the following expenses:

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, classroom, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowances for participants.

6. The Ministry of Foreign Affairs is requested to undertake the following items in cooperation with JICA:

- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;

- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants maybe involved in the course of participation in the program.

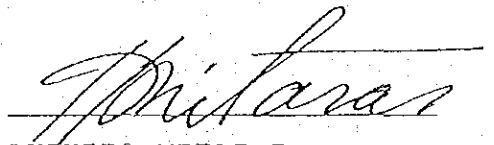
7. Accounting Procedures

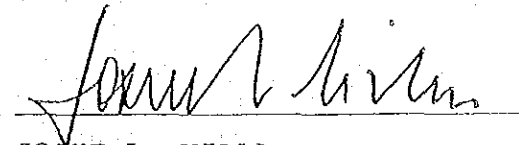
- (1) The Ministry of Foreign Affairs takes necessary measures to submit to the JICA Manila Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5 above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) The Ministry of Foreign Affairs submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference

all the receipts and other documentary evidence if so required by the latter.

Assistant Minister Josue L. Villa of the Ministry of Foreign Affairs and Mr. Akihiro Mitarai, the Resident Representative of JICA Manila Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Manila, 3 June 1985


AKIHIRO MITARAI
Resident Representative of
JICA Manila Office


JOSUE L. VILLA
Assistant Minister
Office of Asian and Pacific
Affairs
Ministry of Foreign Affairs

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to better comprehend the visiting programme to Japan.

2. Contents of the Programme

The Programme consists of the following subjects:

- (1) Orientation by a Ministry of Foreign Affairs Officer;
- (2) Introduction of Japan by a Ministry of Foreign Affairs lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour in and around Metro Manila to deepen understanding of Philippine-Japan relations; and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted from 2 May to 5 May, 27 June to 30 June and 8 August to 11 August, 1984.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have

been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of the Philippines.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the following expenses:

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowances for participants.

6. The Ministry of Foreign Affairs is requested to undertake the following items in cooperation with JICA:

- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports and visas ready to they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;

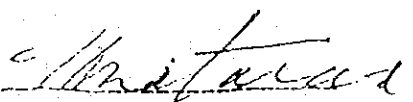
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in the course of participation in the Programme.

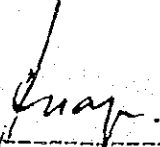
Accounting Procedures

- (1) The Ministry of Foreign Affairs takes necessary measures to submit to the JICA Manila Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5 above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) The Ministry of Foreign Affairs submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Assistant Minister Pablo R. Suarez, Office of Asian and Pacific Affairs, and Mr. Akihiro Mitarai, the resident representative of the JICA Manila Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Manila, April 24, 1984


AKIHIRO MITARAI
Resident Representative of
JICA, Manila Office

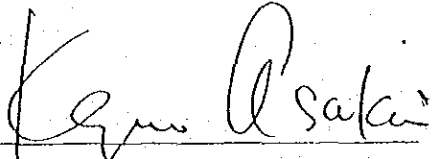

PABLO R. SUAREZ
Assistant Minister
Office of Asian and Pacific Affairs,
Ministry of Foreign Affairs


RECORD OF DISCUSSIONS
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Mr. Kazuo Asakai, Minister-Counsellor of the Embassy of Japan in Singapore, and Mr. Tan Keng Jin, representative of Ministry of Foreign Affairs, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 150 Singaporean young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.

May 3, 1984.


Mr. Kazuo Asakai
Minister-Counsellor of the Embassy of Japan,
Singapore


Mr. Tan Keng Jin
Director-General
ASEAN Singapore
Ministry of Foreign Affairs

GUIDELINES

ON

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 of ASEAN countries' young people who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youths can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and the ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personal contacts, long-lasting relationship of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youths to be invited

(a) The Candidates are Singaporean youths who hold leading positions in the following fields.

- i) Youth engaged in or related to agriculture;
- ii) Working Youth (including young civil servants, journalists, etc.);
- iii) Teachers;
- iv) Students; and
- v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities)

- (b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications:
- i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5. (2) below;
 - ii) To be around the age from twenty (20) to thirty (30) years old; and
 - iii) To be in good health both mentally and physically, to enough pursue the visiting programme, (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).
- (c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

(2) Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned of Japan, the following points are respected in the course of arranging the visiting schedule.

- i) The participants are accepted as separate groups the size of which should be approximately fifty (50) persons divided into two sub-groups.
- ii) A sub-group is composed of approximately twenty-five (25) persons from one field.
- iii) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries' youths but also among ASEAN countries' youths.
- iv) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the end of October.
- v) The duration of visit is about a month.

3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Singaporean youths under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of Singapore takes necessary measures through Ministry of Foreign Affairs to select and dispatch to Japan Singaporean youths in consultation with the Government of Japan.

The Government of Singapore takes necessary measures through Ministry of Foreign Affairs to co-operate with the Embassy of Japan and the Resident Representative of JICA in Singapore in arranging the pre-departure programme.

(3) The Embassy of Singapore in Tokyo takes appropriate measures in consultation with the Government of Japan and JICA whenever necessary to implement the programme in Japan.

4. Tentative Invitation Programme

The programme may include following sub-programmes:

- (1) Pre-departure programme,
- (2) General orientation,
- (3) Special programme designed to enhance mutual understanding between Singaporean youths and their Japanese counterparts in their respective fields,
- (4) Field trip to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan, and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application

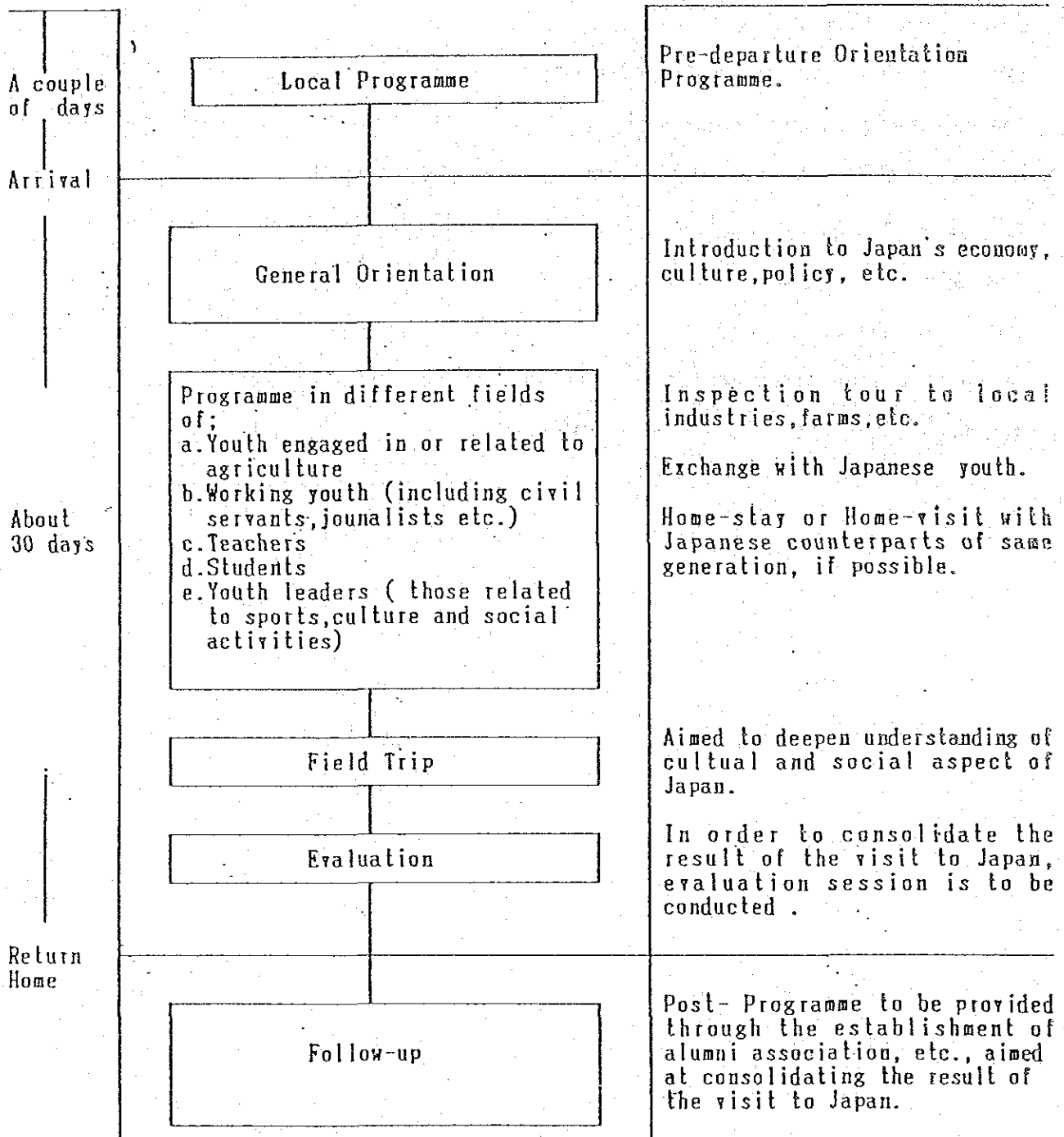
(1) The Government of Japan informs, in principle, at latest five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of Singapore of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G.I.).

(2) The Government of Singapore takes necessary measures to nominate the appropriate candidates for the invitation programme and forward four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.

(3) The Government of Japan informs the Government of Singapore whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

Outline of the Tentative Invitation Programme

The Friendship Programme for the 21st century



N.B : This programme may be revised through consultation between the Government of Japan and the Government of ASEAN countries.

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. PURPOSE

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. CONTENTS OF PROGRAMME

The Programme consists of the following subjects:-

- 2.1 Orientation by a Singapore Officer;
- 2.2 INTRODUCTION OF JAPAN BY A JAPANESE LECTURER;
- 2.3 Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan and around Singapore;
- 2.4 Study of Japanese daily conversation; and
- 2.5 Briefing on the trip to Japan.

3. DURATION

The Programme will be held for about three (3) days.

4. QUALIFICATION OF PARTICIPANTS

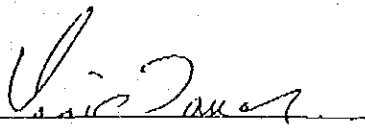
Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Singapore.

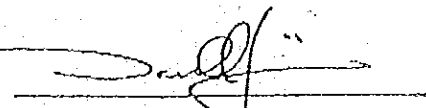
5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, class room and study tours).

6. Singapore is requested to undertake the following items in cooperation with JICA:-
- 6.1 to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms;
 - 6.2 to arrange study tour;
 - 6.3 to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
 - 6.4 to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
 - 6.5 to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
 - 6.6 to take necessary measure for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.
7. ACCOUNTING PROCEDURES
- 7.1 Singapore takes necessary measures to submit to the JICA Singapore Office a bill of expenses mentioned in 5. above.
 - 7.2 JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
 - 7.3 Singapore submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Mr. Tan Keng Jin of Ministry of Foreign Affairs and Mr. Hiroshi Tanaka, the Resident Representative of JICA Singapore Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

29th April, 1985


MR. HIROSHI TANAKA
RESIDENT REPRESENTATIVE
JICA SINGAPORE OFFICE

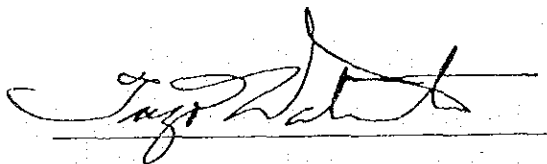

MR. TAN KENG JIN
DIRECTOR
ASEAN DIVISION
MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS

RECORD OF DISCUSSIONS
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

Mr. Taizo Watanabe, Minister of the Embassy of Japan in the Kingdom of Thailand, and Mr. Pracha Guna-Kasem, Director-General of the Office of the ASEAN-Thailand, Ministry of Foreign Affairs and Dr. Saisuree Chutikul, Secretary-General of the National Youth Bureau, Office of the Prime Minister, representatives of the Government of the Kingdom of Thailand, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 149 Thai young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.

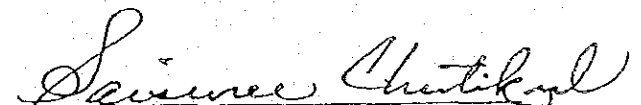
April 12, 1984



Mr. Taizo Watanabe
Minister of the Embassy of Japan



Mr. Pracha Guna-Kasem
Director-General of the Office of
ASEAN-Thailand
Ministry of Foreign Affairs



Dr. Saisuree Chutikul
Secretary-General of the
National Youth Bureau
Office of the Prime Minister

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. Contents of Programme

The Programme consists of the following subjects:-

- (1) Orientation by a Singaporean Officer;
- (2) Introduction of Japan by a Singaporean lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Singapore; and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted for about three (3) days.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Singapore.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, class room and study tours).

6. Singapore is requested to undertake the following items in cooperation with JICA:-

- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (4) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;

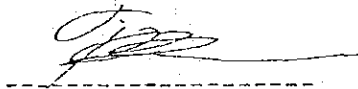
- (5) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (6) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.

7. Accounting Procedures

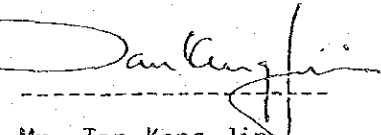
- (1) Singapore takes necessary measures to submit to the JICA Singapore Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5. above.
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) Singapore submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Mr. Tan Keng Jin of Ministry of Foreign Affairs and Mr. Takao Mizobuchi, the resident representative of the JICA Singapore Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

May 3, 1984



Mr. Takao Mizobuchi
Resident Representative of
JICA Singapore Office



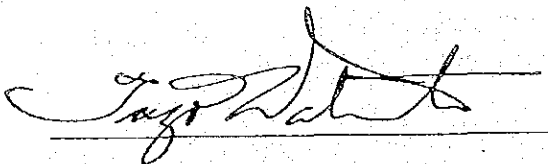
Mr. Tan Keng Jin
Director-General
ASEAN Singapore
Ministry of Foreign Affairs

RECORD OF DISCUSSIONS
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

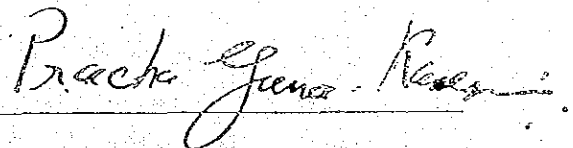
Mr. Taizo Watanabe, Minister of the Embassy of Japan in the Kingdom of Thailand, and Mr. Pracha Guna-Kasem, Director-General of the Office of the ASEAN-Thailand, Ministry of Foreign Affairs and Dr. Saisuree Chutikul, Secretary-General of the National Youth Bureau, Office of the Prime Minister, representatives of the Government of the Kingdom of Thailand, held discussions concerning the implementation of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") announced by Prime Minister Yasuhiro Nakasone in Kuala Lumpur on May 9, 1983, and wish to record the following:

1. The Japanese side stated that the Government of Japan is prepared to invite, subject to budgetary appropriations, up to 149 Thai young people to Japan in the Japanese fiscal year 1984, through Japan International Cooperation Agency under the technical cooperation scheme of Japan.
2. Both sides shared the view that the Programme is implemented along the guidelines attached hereto.

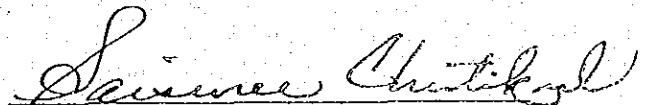
April 12, 1984



Mr. Taizo Watanabe
Minister of the Embassy of Japan



Mr. Pracha Guna-Kasem
Director-General of the Office of
ASEAN-Thailand
Ministry of Foreign Affairs



Dr. Saisuree Chutikul
Secretary-General of the
National Youth Bureau
Office of the Prime Minister

GUIDELINES
ON
THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The purpose of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is to invite to Japan, over a period of five years commencing in 1984, a total of 3,750 of ASEAN countries young people who will shoulder the task of future ASEAN nation-building, so that these youth can have the opportunity to discuss with their Japanese counterparts future relations between Japan and the ASEAN countries. It is anticipated that, from such close personnel contacts, long-lasting relationship of shared peace and prosperity based upon mutual understanding and true friendship will be fostered between Japan and ASEAN countries.

2. Implementation Scheme

(1) Eligible youth to be invited

(a) The candidates are Thai youth who hold leading positions in the following fields.

- i) Youth engaged in or related to agriculture ;
- ii) Working youth (including young civil servants, journalists, etc.) ;
- iii) Teachers ;
- iv) Students; and
- v) Youth leaders (those related to sports, culture and social activities)

(b) The candidates are requested to fulfill the following qualifications:

- i) To be nominated by their government in line with the procedures mentioned in 5. (2) below ;
- ii) To be around the age from twenty (20) to thirty (30) years old; and

The Government of the Kingdom of Thailand takes necessary measures through National Youth Bureau, Office of the Prime Minister to cooperate with the Embassy of Japan and the Resident Representative of JICA in the Kingdom of Thailand in arranging the pre-departure programme.

(3) The Embassy of the Kingdom of Thailand in Tokyo takes appropriate measures in consultation with the Government of Japan and JICA whenever necessary to implement the Programme in Japan.

4. Tentative Invitation Programme

The programme may include following sub-programmes:

- (1) Pre-departure programme,
- (2) General orientation,
- (3) Special programme designed to enhance mutual understanding between Thai youth and their Japanese counterparts in their respective fields,
- (4) Field trip to deepen understanding of cultural and social aspects of Japan, and
- (5) Evaluation of the result of each invitation programme, etc.

The tentative invitation programme is as annexed hereto.

5. Procedures for Application

(1) The Government of Japan informs, in principle, at latest five (5) months prior to commencement of each invitation programme, the Government of the Kingdom of Thailand of the details of each invitation programme in the forms of General Information (G.I).

(2) The Government of the Kingdom of Thailand takes necessary measures to nominate the appropriate candidate for the invitation programme and forward four (4) copies of the specified application form for each candidate not later than three (3) months before its commencement to the Government of Japan through the Embassy of Japan.

(3) The Government of Japan informs the Government of the Kingdom of Thailand whether or not the candidates are accepted to the invitation programme not later than two (2) months before its commencement.

- (iii) To be in good health both mentally and physically, to enough pursue the visiting programme, (pregnancy is regarded as a disqualifying condition).
- (c) The participants may not bring any member of their family with them during their visiting period.

(2) Invitation Arrangement

Taking into account the logistic capacity of the recipient organizations concerned of Japan, the following points are respected in the course of arranging the visiting schedule.

- i) The participants are accepted as separate groups the size of which should be approximately fifty (50) persons divided into two sub-groups.
- ii) A sub-group is composed of approximately twenty-five (25) persons from one field.
- iii) While the participants are invited from each ASEAN country, appropriate measures, such as invitation of an ASEAN component group, is envisaged to promote friendship and mutual understanding not only between Japanese and ASEAN countries youth but also among ASEAN countries youth.
- iv) The appropriate time of visit is between the beginning of May and the end of October.
- v) The duration of visit is about a month.

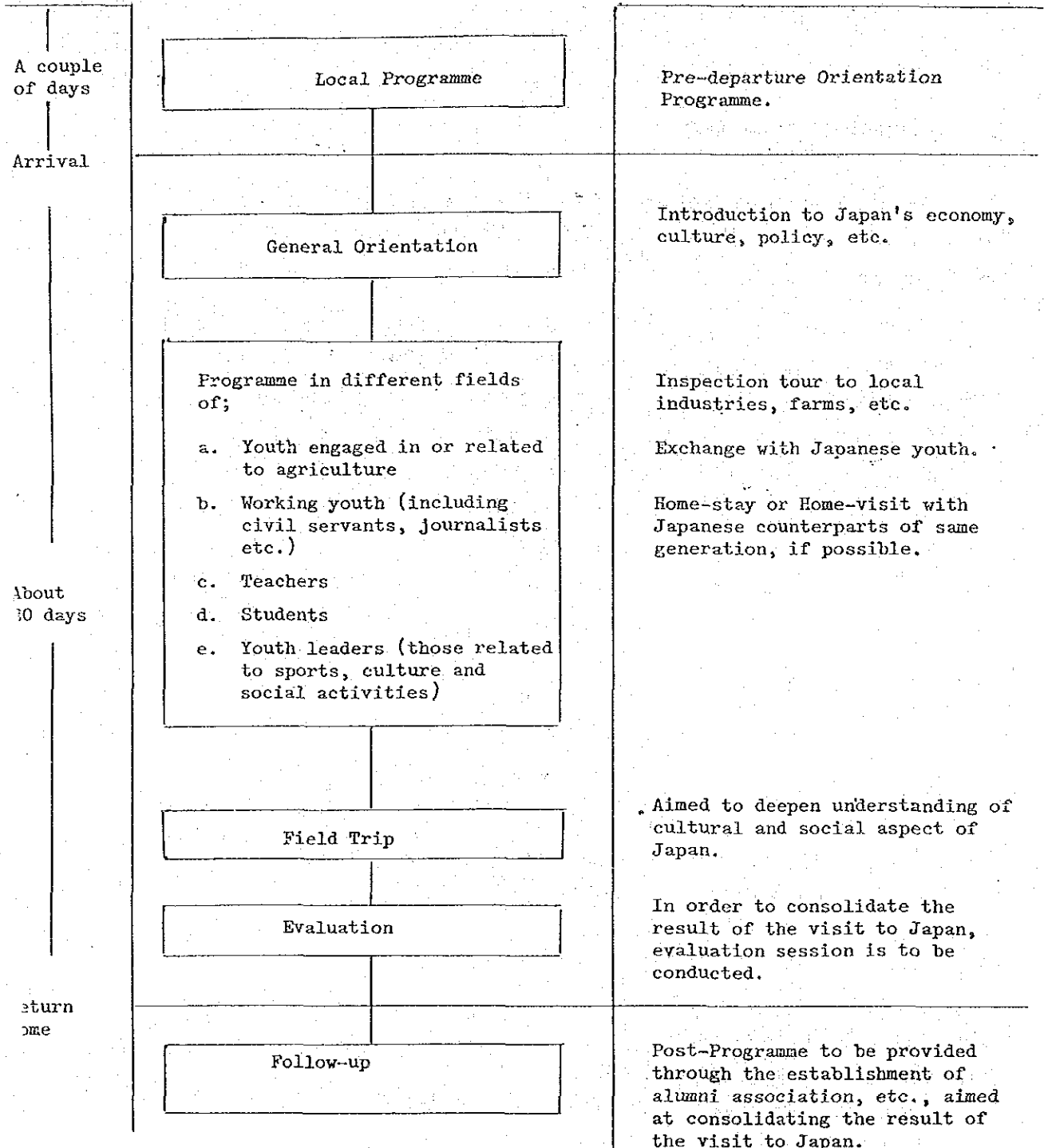
3. Administrative Structure

(1) The Government of Japan takes necessary measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to receive at its own expense the Thai youth under the technical co-operation scheme of the Government of Japan.

(2) The Government of the Kingdom of Thailand takes necessary measures through National Youth Bureau, Office of the Prime Minister to select and dispatch to Japan Thai youth in consultation with the Government of Japan.

Outline of the Tentative Invitation Programme

The Friendship Programme for the 21st century



N.B.: This programme may be revised through consultation between the Government of Japan and the Government of ASEAN countries.

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. Contents of Programme

The Programme consists of the following subjects:

- (1) Orientation by a Thai officer;
- (2) Introduction of Japan by a Thai lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Bangkok, and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted from May 8th to May 11th, from June 19th to June 22nd, and from August 28th to August 31st, 1985

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Thailand.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") bears the following expenses.

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowance for participants.

National Youth Bureau (hereinafter referred to as "NYB") is requested to undertake the following items in cooperation with JICA;

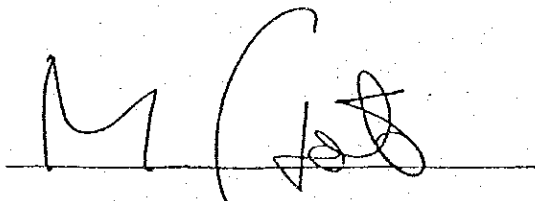
- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in the course of participation in the Programme.

7. Accounting Procedures

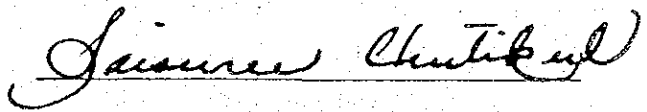
- (1) NYB takes necessary measures to submit to the JICA Bangkok Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5. above;
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) NYB submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Dr. Saisuree Chutikul, Secretary-General of NYB and Mr. Michimoto GOTO, the Resident Representative of the JICA Bangkok Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Bangkok, April 4th, 1985



Mr. Michimoto GOTO
Resident Representative, Bangkok Office
Japan International Cooperation Agency
c/o Embassy of Japan



Dr. Saisuree Chutikul
Secretary-General
National Youth Bureau
Office of the Prime Minister

ARRANGEMENTS FOR THE PRE-DEPARTURE PROGRAMME
OF THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

1. Purpose

The pre-departure programme of the Friendship Programme for the 21st Century (hereinafter referred to as "the Programme") is designed to give some preliminary knowledge that will enable the participants to comprehend better the visiting programme to Japan.

2. Contents of Programme

The Programme consists of the following subjects:

- (1) Orientation by a Thai officer;
- (2) Introduction of Japan by a Thai lecturer;
- (3) Study of Japanese daily conversation;
- (4) Observation tour to deepen understanding of the relationship with Japan in and around Bangkok, and
- (5) Briefing on the trip to Japan.

3. Duration

The Programme will be conducted from May 9th to May 12th, from June 27th to June 30th, and from August 29th to September 1st, 1984.

4. Qualification of Participants

Participants for the Programme must be those who have been nominated as participants of the Friendship Programme for the 21st Century by the Government of Thailand.

5. Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as JICA) bears the following expenses.

- (1) Domestic travelling expenses from his/her living place to the location of the Programme and to his/her living place upon return from Japan;
- (2) Expenses for conducting the Programme (i.e., meeting, materials, printing, class room, study tours), and
- (3) Accommodation and living allowance for participants.

6. National Youth Bureau (hereinafter referred to as NYB) is requested to undertake the following items in cooperation with JICA:

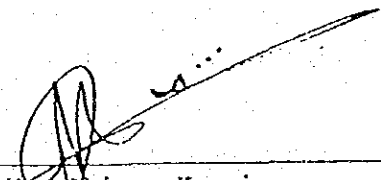
- (1) to appoint lecturers, and to arrange lecture rooms and accommodation facilities;
- (2) to arrange study tour;
- (3) to make the necessary arrangements so that all the participants will be accommodated as scheduled;
- (4) to make sure that all the participants have their passports and visas ready so they can travel to Japan immediately after termination of the Programme;
- (5) to make necessary accounting procedure mentioned in item 7 below;
- (6) to prepare necessary budget to cover expenses other than those that are borne by JICA, and
- (7) to take necessary measures for any problem that the participants may be involved in in the course of participation in the Programme.

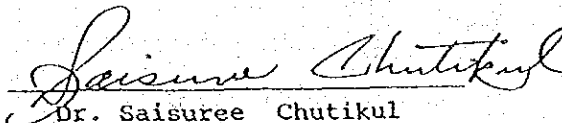
7. Accounting Procedures

- (1) NYB takes necessary measures to submit to the JICA Bangkok Office a bill of estimate of expenses mentioned in 5. above;
- (2) JICA assesses the amount stated on the bill of estimate and allocate the necessary amount.
- (3) NYB submits a statement of expenditures and will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence if so requested by the latter.

Dr. Saisuree Chutikul, Secretary-General of NYB and Mr. Akira Kasai, the resident representative of the JICA Bangkok Office share the same understanding as mentioned above and will take necessary measures accordingly.

Bangkok, April 12th, 1984


Mr. Akira Kasai
Resident Representative, Bangkok Office
Japan International Cooperation Agency
c/o Embassy of Japan


Dr. Saisuree Chutikul
Secretary-General
National Youth Bureau
Office of the Prime Minister

JICA

